

図表 11 - 6 : 遠隔教育の双方向性ルーブリック (Roblyer & Ekhaml, 2000 による).

スケール	要素 #1 インストラクタによる社会的ラポールの構築	要素 #2 インストラクタによる学習支援設計	要素 #3 ITリソースの双方向性レベル	要素 #4 学習者の反応にあらわれた双方向性の質
(1点) 双方向性があまりない	インストラクタは学習者同士が個人的に知り合うように支援していない。社会的な交流が要求される学習活動がないか、開始時の自己紹介程度の限定的なものである。	学習活動の中で、インストラクタと受講者の間の双方向性が要求されていない。講義やテキスト配送などの一方向の情報提供のみが求められている。	ファックス・Web・あるいは他の技術で、インストラクタから受講者への一方向の情報提供(テキストあるいはグラフィックス、または両方)しか可能ではない。	コース終了時まで、受講者がインストラクタまたは他の受講者とやりとりをするのは、そう要求されたときのみであった。
低い双方向性(2点)	簡単な自己紹介に加えて、学習者同士が相互に個人的な情報を交換する機会を一つ設けている(例:個人的な経験や背景について紹介しあうことなど)。	学習活動の中で要求されるやりとりは、受講者それぞれがインストラクタに個別に連絡することだけである(インストラクタからの質問に解答したり、インストラクタに質問したりする)。	電子メール・リストサーブ・電子掲示板・その他の技術で、双方向で非同期の情報交換(テキストあるいはグラフィックス、または両方)が可能である	コース終了時まで、受講者の20%から25%が、自発的に(そう要求されたとき以外に)インストラクタまたは他の受講者とやりとりした。
(3点) 中程度の双方向性	学習者同士が相互に個人的な情報を交換する機会に加えて、最低1つは社会的なラポールを作り上げるようなクラス活動を導入している。	インストラクタとのやり取りが求められる上に、学習活動の中で受講者同士が(ペアか小グループなどで)相互にやり取りをすることが要求されている。	双方向で非同期の情報交換に加えて、チャットルーム・その他の技術が同期的なテキスト情報の交換を可能にしている。	コース終了時まで、受講者の25%から50%が、自発的に(そう要求されたとき以外に)インストラクタまたは他の受講者とやりとりした。

平均的以上の双方向性(4点)	学習者同士が相互に個人的な情報を交換する機会に加えて、いくつかの(複数の)社会的なラポールを作り上げるようなクラス活動を導入している。	インストラクタとのやり取りが求められる上に、学習活動の中で受講者同士が(ペアか小グループなどで)相互にやり取りをすることが要求され、さらにその結果を相互に交換し、またグループ外の受講者にも公開することが求められている。	双方向で非同期の情報交換に加えて、ビデオ会議・その他の技術で、インストラクタと受講生の間で、同期的な一方向の画像によるコミュニケーションまたは双方向の音声によるコミュニケーションを可能にしている。	コース終了時点で、受講者の50%から75%が、自発的に(そう要求されたとき以外に)インストラクタまたは他の受講者とやりとりした。
高い双方向性(5点)	学習者同士が相互に個人的な情報を交換する機会に加えて、多様な社会的なラポールを作り上げるようなクラス活動、ならびに、課外の活動を導入している。	インストラクタとのやり取りが求められる上に、学習活動の中で受講者同士が(ペアか小グループなどで)相互に、そして外部の専門家とやり取りをすることが要求され、さらにその結果を相互に交換し、またグループ外の受講者にも公開することが求められている。	双方向のテキスト情報交換を可能にする技術に加えて、双方向ビデオ会議などの同期的な音声・映像コミュニケーション技術で、インストラクタと受講生の間で、さらには受講生相互の間でのやりとりができる。	コース終了時点で、受講者の75%以上が、自発的に(そう要求されたとき以外に)インストラクタまたは他の受講者とやりとりした。
得点	_____ 点	_____ 点	_____ 点	_____ 点
総合得点： _____ 点				

注：Roblyer & Ekhaml (2000)を鈴木が訳出した。総合得点による双方向性評価の目安としては、双方向性の質が低い：1～7点、双方向性の質が中程度：8～14点、双方向性の質が高い：15～20点としている。

出典：Roblyer, M.D., & Ekhaml, L. (2000). How interactive are YOUR distance courses? A rubric for assessing interaction in distance learning. *Online Journal of Distance Learning Administration* 3 (2) [Available online] <http://www.westga.edu/~distance/roblyer32.html>.

日本語訳の出典：鈴木克明(編著)(2004)『詳説インストラクショナルデザイン：eラーニングファンダメンタル』NPO 法人日本イーラーニングコンソーシアム(パッケージ版テキスト) 第11章 eラーニングと自己管理学習